



おいしい米づくりのひみつ

種子更新 [しゅしこうしん]

毎年農家がまく種子は、種子専用の田んぼ（採種圃^{さいしゅほ}）で作られます。そこには原種（その品種が開発された頃の種子）が使われ、形の異なる株が抜き取られるなどして、より純粋な種子（粳^{もみ}）が生産されます。

この品種固有の特性を備えた優良な種を使用する割合を「種子更新率」と呼びますが、庄内地方の「種子更新率」はほぼ100%です。

「種子更新」は、品質の純粋性をたもつために、とっても大切なんじゃ。



おいしい米づくりのひみつ

よい苗、悪い苗

健康な苗を育てることは、稲づくりにとって大切な作業です。特に冷害を受けやすい東北地方では、稲の生育期間が短いだけに、悪い苗を田植えすると、活着^{かっちやく}（根つきのこと）が遅れ、初めの体をつくる分けつ（株分かれのこと）の期間が短くなったり、穂の出る時期が遅くなったりして、収量や品質を落とすこととなります。

苗を育てるには、温度や水の管理に十分注意して、軟弱^{なんじやく}な苗にならないように中身の充実した太くてずんぐりした苗を育てるようにします。

